

4 ライフスタイル共創ラボ

“Wellbeing Society203x” を具現化する ライフスタイル共創ラボ

～お客さま起点の技術開発・フィールド実証およびその実用化～

NTTドコモ（以下、ドコモ）では、人々の生活がより豊かになる社会“Wellbeing Society203x”を具現化する「ライフスタイル共創ラボ」の取り組みを2021年度に開始した。本取り組みでは、お客さまの新たな体験価値向上へつながる技術開発を進め、パートナーとの事業共創をめざし、さまざまな事業分野の実フィールドで最先端技術による価値検証を行っている。

Wellbeing Society203x 実現に 向けた顧客起点の技術開発

ドコモでは、さまざまな産業分野（ヘルスケア、交通(MaaS)、Fintech、コミュニケーション、エネルギー、都市デザインなど）において技術／サービスを展開しながらより高い提供価値を具現化し、これまでにない新たなお客さま体験（カスタマージャーニー）を提供するためのサービス・技術開発を進めている。ライフスタイル共創ラボとして、各業界パートナーと連携し、ドコモアセットをはじめとする各種サービス・技術を横断したお客さまへの複合価値を実フィールドにて検証している^[1]。

安心で健やかな暮らしを支える 医療・ヘルスケア技術開発

日常生活に溶け込んだ介護予防の

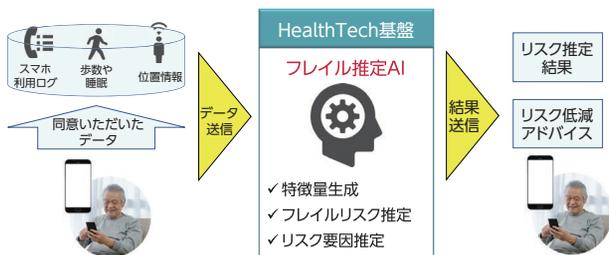


図 フレイル推定 AI の提供イメージ

実現のため、高齢者のスマートフォン利用状況からフレイルリスク（加齢に伴う心身の衰え）を推定し、個別に健康助言するフレイル推定 AI を開発した。東京都や愛知県豊田市にてフィールド実証を行い、本 AI でのフレイルリスク低減率 10% を認めるなど、住民のフレイルリスク低減に寄与できることを確認した^[2]。また、自治体向けサービス「健康マイレージ」では本 AI の商用提供を開始している。

サステナブルな社会実現に つながるスマートシティ・ 交通最適化技術開発

昨今のコロナ禍における混雑回避ニーズの高まりをうけ、コンサートやスポーツイベントなど大型イベント開催時にも適用可能な駅混雑予測技術^[3]や、バス車内の混雑平準化に

向けたバス混雑情報の案内やアウトレットなどの商業施設における観光情報の配信などにおいて、人々の行動変容技術を適用した実フィールド検証*を行い、



株式会社 NTT ドコモ
R&D イノベーション本部
クロスステック開発部長 平松 孝朗氏

適用効果として行動変容向上率 13% を確認した。今後も、交通渋滞緩和や温暖化ガス排出量削減、地域経済活性化に向けて実用化を図っていく。

また、さらに NTT グループが掲げる IOWN 構想—デジタルツインコンピューティングの具現化を見据え、4D デジタル基盤をはじめとする NTT 研究所の要素技術と密連携を図った取り組みを展開し事業拡充に貢献していく。

[1] NTTドコモ・ライフスタイル共創ラボサイト、<https://smartcity.ad.at.nttdocomo.co.jp/>

[2] NTTドコモ・テクニカルジャーナル、Vol.30, No4、スマートフォンログによる要介護リスク低減をめざした フレイル推定 AI

[3] NTTドコモ・テクニカルジャーナル、Vol.30, No1、イベント開催時の混雑に対応した鉄道駅利用者数の予測技術

*環境省の委託事業「令和3年度 低炭素型の行動変容を促す情報発信（ナッジ）などによる家庭などの自発的対策推進事業」の一環